

## 金融研究センター 研究プロジェクト

### 【論文等執筆方式】

「昭和期における金融行政等が果たした役割や影響」

＜任期：9か月程度（延長の可能性あり）＞

### ● 背景

令和8年（2026年）に、昭和元年（1926年）から起算して満100年を迎えるところ、「昭和100年」関連施策関係府省連絡会議（令和7年1月17日）において、「これを契機に昭和を顧み、将来に思いを致すことは大変意義深い」との考えから、各府省庁において「昭和100年」関連施策を推進することが決定された。

同会議では、施策の方向性の一つとして、「昭和を顧み、昭和に学び、未来を切り拓いていくための施策」が提示された。こうした背景を踏まえて、昭和期における金融行政等が果たした役割や国民経済等への影響を調査・研究することとしたい。

### ● 研究内容

昭和期の金融行政等が、国民経済や個人の貯蓄・投資活動等にどのような影響を与えたかを検証する。具体的には、戦後から高度経済成長期までの金融・経済史の中で、主に証券民主化運動、金融教育、家計資産の変遷等に着眼する。現在の金融庁の施策（資産運用立国等）にも通じるような昭和期の施策や当時の学校における教育を調査し、その後の企業活動、家計資産、マクロ経済等に与えた可能性について研究する。